



335-B地区7R1Z  
 堺浜寺ライオンズクラブ  
 2006・7～2007・6  
 クラブ紙 瓦版秋号

クラブ会長テーマ 『 拡げようウイサーブの仲間達、伝えよう奉仕の心 』

会長指名を受け  
 村上 健

半年が過ぎました。メンバー全員に感謝致します。この間に、考え気付く事が多々ありました。正直、指名を受けた時は「マイツタ」、その後「ヤルカ」に変化。「一年間ではないか」と言いしかせてのスタートでありました。と言つのも、我が浜寺クラブは予告なしでの指名制ですので、私の様に準備のないメンバーにもやってくる訳です。

最初に気づいた事は、「人間、漫然と見ていては何も覚えていない」とした今までの会長、幹事等の行動、委員会の役割、例会時に於ける国旗に「礼」、ゴングの鳴らし方等、十八年間何をしていたか、よく覚えていないが現実であります。それと、もう一つ、事務局より送られてくるFAXの枚数が、会長の責務、クラブとしての活動量を痛感させられます。自身、頼りない会長と思いつつ、幹事の名前を見ますと「健治」と「健」。「健を治める」と書いてあり、つまらない感心をして、今年度は幹事を始め各役員、理事メンバーに任せるをモットーにしています。最後になりましたがメンバー全員の健康、家族の幸せ、会社の発展が、クラブメンバー相互の懇親、そしてボランティア活動に繋がることを、お願い申し上げます。

挨拶とさせていただきます。



幹事を拝命し  
 滝北 健治

幹事をせよとの「指名」に、えっ？と一瞬目を疑いました。大変名誉なことではありますが、入会させていただいてはや4年目では在りませんが、やっとライオンズクラブが、ほんやと見えてきたところでございます。伝統ある堺浜寺LCCの名前を汚すのではと心配ですが、勉強してみないと諸先輩の暖かい親心に感謝いたします。

「先日地下鉄の車内で十数名の中学生に遭遇しました私の前に少年たちが座って居て私は思わず君達の横に置いてある鞆を膝の上に置けばもう一人座れるとは思わなかつたと言っていました。」

子供のころこんなつらさい親父が近所に居たことを思いだし戸惑いも有つたのですが、苦い後の甘みと言いますか少年達は万博公園陸上競技場からの帰りで、成績はどうか、しんどかつたとか、話が盛り上がり、言つてよかった。この少年達は今後何物も必ず膝の上に置いてくれると確信し爽やかな気分が帰毛出来ました。会長テーマ「拡げようウイサーブの仲間達、伝えよう奉仕の心」を伝えてゆく大事さを感じました。

この一年間皆様には色々とお迷惑を

おかけすると思いますが諸先輩方の暖かい寛容な目で見守って頂けるようお願いいたします。「頑張ります。」



堺浜寺ライオンズクラブに  
入会して 片岡 隆士

堺浜寺ライオンズクラブ（第九九九回例会時）に入会して、早九ヶ月が経ちました。スポンサーの鈴木之入様より、「入会式は是非、奥様と一緒に来て下さい」と言っていたので、「わかりました」と容易く返答したものの、会合等に二人で出席する機会がほとんどなかった私達夫婦にとって不安な気持ちでいっぱいだった事を今でも覚えていません。不安な気持ちを抱きながら入会式を迎えたのですが、メンバー皆様方が暖かく迎え入れていただいたお陰で、式が始まると何時の間にか不安な気持ちがなくなり新鮮な気持ちでワクワクするくらいでした。入会式を妻と一緒に出席出来た事を大変、光栄に思っています。入会後は、微力ながらも献血活動や大和川河川敷清掃活動等に参加させて頂き、活動する前には、正直なところ気乗りしていませんでしたが、メンバーの皆様方と活動をしていくにつれ、私の心の中で「なるほど、こういう事だったのか」と奉仕できる（奉仕している）喜びと、自己啓蒙心が芽生えていく自分に驚いています。奉仕する事によって何らかのお役に立っているという喜びと共に、私自身の心が洗われたような清々しい気持ちになりました。これからもこの気持ちを大切に活動していきたいと思っています。最後になりましたが、伝統ある当クラブに入会させていだいた事、また素晴らしいメンバーの皆様方とお出合い出来た事を、スポンサーの鈴木之入様はじめ、メンバー皆様方に心から感謝しています。どうぞ今後共よろしくお願ひ申し上げます。



新入会員の紹介コーナー

新入会員のみなさん、ご入会おめでとう

私（たち）はほんじつより立派な奉仕事業の実績のある堺浜寺ライオンズクラブに入会を承認され、この上ない名譽なことに存じます私（たち）は国際協会及び当クラブの会則を守りライオンズの誓いを心に刻み 例会は勿論のこと 諸会合にできる限り出席しいかなる時も無届けにて例会を欠席しないことを宣言いたします。一日も早く良きライオンになりませう皆様のご指導を切にお願い申し上げます。



三年程前より、中谷さんに堺浜寺ライオンズクラブへの入会のお誘いを受けていました。この度、五月の例会で堺浜寺ライオンズクラブに入会をさせた頂戴しました。私自身、どれだけのことが出来るかわかりませんが、入会させて頂いた以上、例会や各事業には、積極的に出席し一日も早くクラブにとけ込めるように頑張つて参りますので、今後とも、ご指導、ご鞭撻を宜しくお願ひいたします。

入会にあたり 川端 啓彦

皆様は、クラブご入会に際し、誓いの言葉

会員委員会

を声を大に宣誓下さいました。そして、例会出席に、また、色々な奉仕活動に積極的に取り組んで下さっており、これを大変嬉しく思いますと共に、この上なく心強く思っております。



We Serve

例会ピックアップ



家族納涼例会・8月第2例会

格別の暑さを味わった今年の夏には恰好の企画であった。残暑まだまだ厳しい八月二十六日（土）夕刻、帝国ホテル大阪一階ロビに集合、暮れなずむOPA港より大阪水上のグルメ・ミュージック船「ひまわり」に乗船した。形ばかりの例会を行い、早速、デイナークルズとなった。爽やかなピアノとバイオリンの生演奏のなか、窓に映えるライトアップをされた大阪城や中之島の美しい夜景に目を奪われながらの、名にふさわしい一時であった。家族例会と云うことで、LLの他L吉田は昨年に続き可愛い三名のお孫さんのご長男家族を引き連れて参加してくれており、大変和やかなムードを演出してくれていた。下船の際の夜風はまた格別であった。計画委員会さんありがとう。



# YE事業に感謝した7月

川口 武史

七月七日早朝、受け入れユースもMiss・Nika・Viciicが、それまで聞いていた事も無かった国スロベニアから、何とも頼り無い英語しか出来ない夫婦と婆、そして忙しくてそれどころでは無い子供達のホストファミリーにやって来ました。彼女は緊張気味のホストファミリーに対して、逆に細かいところにも気遣いをしてくれて、ごく自然に家庭の中に溶け込みました。そしてスロベニアと言つた国の事をいろいろ教えてくれて、我々がスロベニアの良さに感心している間に、訪問の約束を取り付けて行きました。ホストファミリーとしては短い滞在中で、近場で日本を代表する所だけは見て貰いたいと思い、大阪城、金閣寺、清水寺、東大寺、法隆寺等を見学に行きました。しかし、我々ホストファミリーも改めて日本の文化を再認識する事になりました。今までYE事業についての認識は非常に薄く、YE生の海外旅行を手助けする位の感覚でした。しかし、ホストファミリーとして彼女を迎えたお陰で、我々ホストファミリー自身も非常に世界が広がったように思います。そして何より感動したのはユースキャンプの最終日、フェアウェルパーティーに参加した時の事です。まだ学生とは言え約三十カ国の人間が集まり、自分の国を紹介し、平和について話し合い、そして全員で



で友好を深めている姿を見て、この事業のすばらしさを実感しました。最後になりましたが、いろいろアドバイスを頂いたもう一件のホストファミリーのL片岡、新旧YE委員長のL仲西、L上總、クラブフェアウェルパーティーでお世話になりましたL宮部、そして何かとお声掛けをして頂いたメンバーの皆様方、大変お世話になりました。ありがとうございました。

片岡 惟行

スロベニアというあまり私には馴染みのない国からのY・Eのホームステイを引き受ける事になったその日から、にわか勉強で、スロベニアに関する知識、情報をインターネットから得るようにしてみました。そのことが結果的に、老齢化してゆくライオンズクラブのメンバーに対する良い刺激剤になるかなアと、別の意味の効用を確認しました。NIKA・VICIICは一見、物静かな、欧州系の佳人という感じですが、私達の家にいるときは結構、快活な若者で大声で笑うし、愉しく打ち解けて身振りたつぷりに話す良家のお嬢さんでした。食べ物にやや好き嫌いがありませんが、なんにでも挑戦するという姿勢は、十分につかえ、ある時など和風割烹で、サケやイカの寿司や天ぷらと、京風の野菜の煮物なども楽しく食べていたように見受けました。たぶん食わず嫌いというものもあつたのでしょうか。家内は久しぶりに使う英語のもどかしさに、最初は苦勞していましたが、それも慣れで乗り切り、忘れかけているものを出す効用にもつながって、けっこう楽しくやっています。私と家内とは、もう6、7カ国のY・Eをホームステイさせたことになりました。始まる前はいつも、しんどいなアと思っているのですが始まってしまつと楽しいことが多く、送り出してしまつと何か空っぽになったようなさみしさも残りまた引き受けようかと思ったりするのが常です。彼女は帰国後、丁寧な礼状をE mailで送つてよこし、来年六月ころには是非スロベニアにどうぞというお誘いもしてくれています。行く、行かないは別ですが、大層なことをいわなくても、身近でできる異文化交流の体験はいつも、Y・Eにとつても私たちにとつても、とても新鮮で楽しい、しかも意義深いことだと思えます。

## 2006年YE夏季派遣ユース帰国レポート

**2006夏期ノンライオンYE派遣ユース**（期間8/1～8/25）氏名 粟屋寛子 20才（病気遣児）  
 本籍 山口県宇部市 現住所 神戸市 あしなが育英会「虹の家」 学歴 武庫川女子大学3学年在学中生活環境部  
 派遣先 フランス シャンパーニュ地方

「大学生になったら、自分の専門分野を生かして海外へ留学したい。」それは幼い頃からの夢でした。中学生の頃に短期で海外へホームステイをする機会があり、異国の言語・文化・思考に触れ、自分の中で新しい価値観が形成されていくのが、幼いながらも新鮮であったからです。しかし、いざ大学へ入学すると、カリキュラムの忙しさから、1年間の留学が困難であることに気がつき、悲嘆に落ちていました。そんなところに、今回このライオンズクラブでのユース・エクスチェンジのお話を頂いたのです。「このチャンスを無駄にしたくない」と英会話、フランス語を事前に勉強したかいもあり、1ヶ月間食文化の豊かなヨーロッパ、フランスへ派遣して頂くことができました。私は、派遣の前に1つだけ決めていった目標があります。それは「食について体感してくる」ということです。単なる料理の作りかただけではなく、歴史、文化、問題点から特徴にいたるまで、フランスの食事情を学ぶことで、今後学生生活、ひいては人生に活かしたい。というも、私は現在大学で、食物栄養学科・管理栄養士専攻として、日頃から栄養と健康の関連性を勉強しており、授業や実習を通して得た海外の食事情に対する知識と実際の様子を比較検討することで、今までの学生生活で得たことをより自分のものにできるのではないかと考えました。教科書には載っていない何かがあるのかもしれないし、もしかしたら全く違う事実があるのかもしれない。どんなものを食べ、どんな生活を送り、結果どんな健康状態なのか。そんなことを考えては、出国前からとてもわくわくしていました。

基本的にヨーロッパ人は、日本人に比べ、カロリー・脂質・たんぱく質の摂取過剰が見られ、肥満が原因となる生活習慣病罹患率がとても高いことが食生活の特徴と言えます。特に脂質では日本人の約1.5～2倍近くを摂取しており、最近では日本人の食事はヘルシ



ーだと言って注目を浴びているほどです。私は当初、日本の食事でも最近では洋食が取り込まれるようになり、油っぽく、ヘルシーとは一概に言い切れないと考えていました。しかし、実際にフランスへ行き、その考えを見直すと同時に、フランスにおける脂質・エネルギー過剰の原因を体験することとなりました。まず、フランス人は日本人には想像もできないほどの量を1回の食事ですり込みます。また、町ではソフトクリームやアイスの露店が至る場所にあり、街の人たちは、喉が渴いたと言ってはトリプル（3段重ね）を頼み、ファーストフード店でもサイズアップが一般的。ピクランチを好み、伝統的なスタイルでは多くの種類をたくさん食べます。最初のステイ先はシャンパーニュ地方でした。ここはあたり一面をブドウ畑で囲まれた田舎であったため、これらの伝統的な食事スタイルが根強く残っており、みっちり2週間体験することができました。まず、シャンパンとナッツを1時間程度飲み、次に席を移動して前菜、メイン、サラダ、チーズ、デザート順にプレート料理が出されます。日本人の感覚でいくと、前菜だけで一般的な夕飯の量にあたると思います。これらを大量のワインと共にたっぷり2～5時間ほどかけて食事を行うのです。食べる量がとにかく多く使う油の量がとても多く、これではカロリーオーバーと言われるのは当たり前だと初日から実感しました。また、料理を教えてもらった際に最も驚いたのは、1品の料理を作る量の多いことです。日本で揚げ物をするくらいの量を炒めものに使うのです。ヨーロッパにおいて脂質が過剰になっている原因や、日本の食事はヨーロッパの人から見たら本当にヘルシーであると感じる理由はここにあるのではないかと感じました。このように、ささい

堺浜寺ライオンズクラブのホームページでもご覧になれます。「<http://www.h6.dion.ne.jp/~hamadera/>」

なことで体験と知識が繋がると、次々と興味が沸き、この1ヶ月の間、スーパーの陳列の様子、市場の様子、食事内容、町を歩く人の体型、そして日常の会話の中などで本当に多くのことを学ぶことができました。1ヶ月生活をする中で食事以外にも、生活、習慣などに触れるうちに、フランスのことはもちろん、日本のことを知り、改めて自国を見つめ直す機会も多々ありました。たとえば、フランスでは見知らぬ人でもタバコの貸し借りが当たり前で、道でタバコをねだられれば誰でも快く差し出します。これは税金が重くタバコ税も例外ではないこと、失業手当の支給基準が緩いためにホームレスが社会復帰をしようとしていないことに原因があるようでした。日本では、このようなタバコのやりとりは絶対にありません。また、ホームレスもフランスに比べて少ない税率も低いように思います。その他にも、日本では駅や道にゴミが落ちていたということはさほど多くなく、衛生面でもフランスより勝っているように思います。しかし、自国への愛国心という面ではフランスには全く及びません。フランスではいたるところに国旗が飾ってあります。観光地はもちろん、役場などでは国旗が20近く飾られます。しかし、日本では観光地に国旗があるということは、まずあまり耳にしません。国旗を飾ることを恥ずかしいと思っている人もいます。誇れることは多いはずなのに、日本人は自国への尊厳が極端に低いように思いました。

私は1ヶ月間フランスで生活をして、今まで以上にフランスを身近に感じ、好きになりましたが、それ以上に日本を今まで以上に大切に思うようになりました。この国に生まれて良かったと今は心から思います。他国へ行き、自国を知る。これは、このホームステイがなければ経験しえなかったことです。また、印象的だったのは家族とのコミュニケーション方法です。「ホームステイへ行って、ホストファミリーがどこへも連れて行ってくれずとも暇だった」という話をよく聞きます。私の場合も、田舎であったために観光をするのが難しく、昼間は共働きの家庭だったため家で過ごす1人の時間も多かったです。それでも、毎日が充実していたのは、きちんと目標をたてて行ったからのように思います。テレビで料理番組を見て作り方を覚えたり、庭にでて果物をとってスローフードを実感したりと、暇な時も自分なりに有意義な時間の使い方することで、ホストファミリーへの不満も生まれず、自分のためにもなり、結果とても楽しいホームステイとなりました。このことで、自分の置かれた環境を自分でより住みやすくするコツのようなものを覚えた気がします。



その他にも、ホームステイを充実させるコツという面では、自己主張をすることの大切さを実感しました。以前ホームステイを経験した時から、言語能力とは関係なく、自分の意思をはっきりと伝えることの難しさを感じていました。私は「It's up to you.」や「What do you want to do?」といった自分の希望を尋ねられる質問がとても苦手です。何故ならば、遠慮をしまい、相手の都合を考慮してしまったりすると、何がお互いにとって良い選択なのかが分からなくなるからです。今回も例外ではなく、同じように苦戦しました。しかし、最初の家庭を去った時に、仲良くなったもののどこか一線を越えていないような気がし、振り返るうちに気がついたのです。遠慮をしまった時点で、それは家族としてではなく、自ら客人として接してしまっていることを。また、自分が希望を言うほうが、より相手に都合をつけやすくするという考えもできるようになりました。今回は連続して2家庭にホームステイをすることができたお陰で、自分なりに反省や改善をするチャンスがあり、2家庭目ではより自分の希望を伝え、結果、家族としてホストファミリーに受け入れられ、自分もまた家族のように接することができたと思います。今回私は1ヶ月の間に、エピヤーネというシャンパーニュ地方の村、パリ、そしてルアーブルというモネが絵を書いたことで有名な海辺の町の3つに滞在しました。田舎暮らしと都の観光の両方を行い、ホストチェンジによって山、都市、そして海と色々な地域を見ることができ、フランスという国を様々な視点から眺め、考えることができました。今回、食について学んだことを残りの学生生活に生かし、経験したことを自分の人生の糧にし、日本について考えさせられたことを人にも伝えることでより深めていきたいと思います。そして、いつの日か今度は自分の力でフランスへ渡り、親しくなった人たちに再会をして、今よりもっともっと人間的に成長した姿をみせたいと思います。その時のために、今からもう一度フランス語を勉強しなおすつもりです。最後になりましたが、今回このように貴重な体験をする機会を与えてくださったライオンズクラブのメンバーの皆さんには心から感謝をしています。ありがとうございました。

堺浜寺ライオンズクラブのホームページでもご覧になれます。「<http://www.h6.dion.ne.jp/~hamadera/>」

## 受入れYE生 miss ニカの残した「日本ユースキャンプ参加レポート」

## 2006夏期YE受入ニュース

氏名 NIKA VICIC (ニカ・ヴィッチ)  
21才 女性 (ライオンファミリー)  
資格 YE国際日本ユースキャンパー  
出身国 スロベニア共和国 (IDNO・YC-29)  
学歴 リュブリャナ大学2年在中政治学科専攻  
受入期間 7/7~8/1



キャンプのアクティビティーはほとんど素晴らしいのですが、移動が少し多過ぎるように思います。広島は大変気に入りました。他の場所は格別な印象は受けませんでした。広島は資料館を見ることができて本当に有意義に思い、うれしく思っています。あと、USJが良かったです。お茶会でもとても楽しみました。食事については、もう少しヨーロッパに近いものを準備していただきたかったように思います。私が特別にお願いしたいのは朝食です。(パンやフルーツが少なかったです。)日本で二家族にお世話になることができ、キャンプにも参加できて本当に嬉しく思っています。この三週間で私は日本について、日本の伝統、そして日本人について、その他色々として、日本はありますが学べた気がします。キャンプのスケジュールについては移動が多い為にタイトなものになってしまったように思います。大まかに云わせていただきますが、私は日本が大好きで日本に滞在することができて本当に良かったです。YEを通してこんなに遠くを訪れることができ、人生のステップになった事を本当に嬉しく思います。

## 第9回 愛育社 夏休みフェスティバル!!

## 【真夏の暑い暑いアクティビティー】



## 〔フェスティバルの内容〕

- (1) 対象者・・・福祉施設「愛育社」児童70名及び職員、近隣老人ホーム入居者呼び 近所一般住民
- (2) 後援・・・堺浜寺ライオンズクラブ・NPO大阪建築関係など
- (3) 飲食コーナー・・・焼きそば・焼き鳥・たこ焼き・生ビール・ジュース・ポップコーン・フランクフルト・かき氷・唐揚げ・ポテト・蛸せんべい・など。
- (4) ゲームコーナー・・・宝物つり・あてもの・輪投げ・金魚すくい・射的・など。
- (5) 大バザーコーナー

## 〔我がクラブよりのアクティビティー〕

- (1) 労力奉仕・・・メンバー26名(9:00~16:00)
- (2) 奉仕金額・・・18万円
- (3) バザー用品メンバー各1人1点以上拠出
- (4) 会場設営・・・テント・床几・前日出動 14名

毎年我がクラブが直接的、間接的に援助を行っている当フェスティバルも、今回で9回を数え、残暑まだまだ厳しい8月27日(日)、愛育社キャンパスで盛大に行われた。当事業はクラブで社会福祉委員会の担当で、後援の企画や予算などが提案され、メンバー全員で労力奉仕をする、愛育社の児童たちが毎年待ち焦がれている真夏の楽しいイベントである。我がクラブメンバーは、施設の高学年の生徒の応援をえながら、飲食模擬店コーナーを全面的に担当し、エプロン姿でコンロの熱い炎に汗だくになりながら、若い中高生と仲睦し、唐揚げを揚げたり、焼き鳥を焼いたり、慣れない作業に苦戦しながらも、和気あいあいの内に、時に生ビールで喉を潤しながら励んだ楽しい奉仕であった。なお、来年は第10回の節目を迎えるということで、施設の理事長を始め職員一同、来年へ繋げるべく頑張っていたのが印象的だった。



俳句部（松籟句会）の活動報告 宮部 一穂

今期も尾亀清四郎先生のご指導のもと、月一回の吟行（毎月第一日曜日）と月例会（毎月第三木曜日）を定期的に活動しております。ちなみに今期に入つての吟行は、

- 七月 宇治方面（三室戸寺・平等院・源氏ミュージアム）
- 八月 なにわの探索クルーズ
- 九月 岸和田だんじり祭

このように吟行とグルメを楽しみ、作句に苦しんでおります。句友の近作を挙げてみますと、

- 一溪に萬の紫陽花三室戸寺 荻野 克美
- 巡航に八百八橋川涼し 平井真佐雄
- 鱈屋へ水都クルーズ果たれば 平井喜世子
- 半夏餅搗く家もなく村老いぬ 木村 信幸
- 参道に梅雨雷待つたなし 仲西 健豊
- クルーズの窓の日差しも夏の果 宮部 薫女
- 盆東風を分けて水都の遊覧船 宮部 一穂
- 千仞の溪に虹立つ山ホテル 尾亀清四郎

尚、会員以外のメンバーの方々も一度吟行に参加されませんか。どしどし我々に申し出て下さい。臨時の参加も大歓迎いたします。楽しいライオンズライフをお過ごしになるためにも……



堺浜寺ライオンズクラブ 金剛山探索同好会 レポート

堺浜寺ライオンズクラブと金剛山探索同好会世話人L村上率いる勇士11名（L村上、LL村上、SL村上、L片岡、L中原、L荒木、L津田、L東）当クラブ9名、堺レインボーLC、女性（L堀内L田川）2名の参加をして頂ました。前日から天候が心配される中、AM9:00頃より登山組（登山道2手に別れ登山開始）沢山の食料を運ぶ為ケーブル組に別れ千早金剛山キャンプ場で合流する事にしました。L村上、L荒木、ベテラン組は約50分程で山頂まで辿りつきました。ベテランL中原率いるアマチュアながらも、普段より節制を心がけ、ウォーキングをしているL津田は軽やかに、しかし巨体のL東はバテバテで約70分かかりましたが無事辿り着きました。山頂にて大きく深呼吸、いつものように役の行者さんに参拝して、無事に感謝し家族の健康と多幸を祈りました。L村上が山頂でケーブル組を迎えキャンプ場までの道中、山々や草花を指差し他クラブから参加2名に丁寧に説明をしたりとガイドぶりには脱帽しました。L中原が金剛山で松茸を発見したと大はしゃぎ（証拠写真付き）で紹介しました。アウトドア本格派L荒木の指示で早速食事の準備にかかりました。同会結成以降、日々纏まりのよさと手際のよさに他クラブの参加者は関心しておられました。今回は交流参加の女性2名を招待したこともあり、おもてなししようとL東が松茸を持参、L片岡、L荒木、L村上、L津田も皆で持ち寄り、松茸、牛肉、鶏肉、ワイン、にがり酒ありと、とびっきりの食材を提供していただきました。山頂の野外とは思えぬほどの豪華食材と

素材に、みんな目を丸くしてビックリしました。当クラブきつてのワイン通L片岡が持参のカリフォルニア赤ワインで乾杯をしました。そろそろ七輪に火が入り、いきなり本日の主役の松茸を網にのせ少し焦げ目の付く位軽く炙り、ゆずを絞り、岩塩かボン酢で秋の味覚の王様に舌鼓。続いて大判で肉厚の牛タンをL片岡自家製の粒入り塩コショウで焼きそのまま食べました。牛肉も霜降りお肉に豚トロ、鶏肉のせせり身、首皮、砂ずり、肝、お店でも味わえない程おいしかったです。満腹になりましたが焼きそば、冷やしそうめん、お餅までフルコースでした。大大満足の楽しい時間がすぎ、そろそろ終演の時、絶え間なく続く笑い声と会話で名和やかに1日があつと言つ間でした。本当に素晴らしい登山でした。他クラブとの交流も十分成果があり大変喜んで戴けたと思つていきます。次回は当クラブ始め他クラブからのたくさんさんの参加を楽しみたいと思つていきます。LL片岡、LL村上には買い物始め、食材の下ごしらえから調理後かたづけまでしていただいき特に感謝しております。



# 写真で見えるアクティビティ

YE 歓送迎会 2006・8・10 (1010例会)



秋の交通安全週間運動 (2006・9・21)



大和川クリーンアップキャンペーン (2006・9・23)

